

# シンガポール研修～世界74億人と共存可能な人材を育てる～

日時：2017年5月17日（水）～5月20日（土）

報告者：熊坂歩美

シンガポールとは、、、

- ・東南アジアに位置する東京23区程の国
- ・貿易中継港として発展してきたため、中華系、マレー系、インド系など、さまざまな民族が暮らす
- ・仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教など多様な宗教、文化が共存する多民族国家

施設視察

- ・Eton House International Education Group  
世界中の子どもたちが集まるインターナショナルスクール
- ・Eis International Pre-school  
日本人の子どもたちが受けるシンガポールでの幼児教育

<Eton House International Education Group>

イートンハウスは、子供に焦点を当てた学習と教育環境をサポートし、研究と国際的に認定されたベストプラクティスに基づいて、その哲学を開発している。

イートンハウスでは、子どもたちの好奇心や不思議をサポートする魅力的な環境を通じて、バランスのとれた個々の子どもを育てるこことを目指している。それは子どもに従事し、それらを意図的に設計された学習領域で動作するように材料の広い範囲を提供している。

すべての子どもは、大人と仲間の両方で自由かつ容易にコミュニケーションするために社会的スキルと自信を身につけるべきである。イートンハウスは、人全体の発展に貢献する、幸せでリラックスした安全な環境を提供するために設立された。

## <Eis International Pre-school>

イーズは「安心 (Ease)」という意味である。子どもたちやお父さん、お母さんにとつて、いつまでも安心できる存在、安心して子どもを預けられる場所でありたい。それが、イーズの由来。

「自由でのびのび、生き生き、本気で子ども主義のバイリンガル幼稚園」

### 子どもたちの今と未来を幸せにする

おもしろそう、どうなっているんだろう、触ってみたいというやってみたいエネルギーを大きくすることが年齢を問わず幸せでいられること。やってみたいエネルギーを大きく育てるために一番大切なことは自信と安心。お父さん、お母さんから愛されているのはもちろんだけれど、他にもあなたのことの大切に思っている人たちがたくさんいることを理解ではなく、心にしみこませてほしい。もう一つ、幸せに敏感になってほしい。明日も明後日も来週も来月も10年後も20年後も楽しいことがいっぱい待つことを期待して、わくわくしながら毎日を過ごしてほしい。

「あなたはとても価値があって素晴らしい人間である。」「あなたの未来は輝いていく。」この二つの自信が子どもたちの今と未来を幸せにする最も大切なことだと思う。

### 愛情の循環

幼児期には愛情をたっぷり与えられることが大切である。しかし、もらった愛情をそのまま閉じ込めてしまうと、引きこもりや精神が不安定になってしまふ。そのために、動物や植物を育てたり、友達のために何かをすることで愛情を与える。特に、障害を持つ友達がいると、自然に理解し、手を貸すことを身につける。他の人の役に立つことの喜びを学ぶことができ、たくさんもらった愛情を循環させることができるようになる。違うひとりひとりが集まって一緒にいることが素敵だと気づいてほしい。できることも違えば、できないことも違う。そこを補い合うことが愛情の循環を生む。

### 統合保育

健常児にあって特別支援の必要な園児と関わることは心が豊かに成長するとも大切な機会。愛情を受けるばかりではなく、愛情を与える側にもなることは、愛情の循環を良くし、豊かな心の人間形成にとても役立つ。子どもたちはひとりひとりがとても大切な存在であり、どんな時もかけがえのない友人であることをきちんと学んでほしい。

## 英語教育

正しい文法やスペルを覚える前に、英語でのコミュニケーションを楽しむことが大切。先生との信頼関係ができれば、理解したい、伝えたいというエネルギーが湧いてくる。まずは、英語を使って意思の疎通ができると、相手の思いを理解し、自分の思いを相手に伝えられることを充分に楽しむことが大切。それが、その先の英語力の伸びに大きく関わっているようだ。

## 日本語教育

日本人保育者からの語りかけを中心にさまざまな行事、読み聞かせ、活動を通じて正しい日本語の語彙、慣用句の使い方を学ぶ。言語を学ぶことによって、日本の文化を深く知ることができ、日本人としてのアイデンティティーを確立する。

## ジャパニーズインターナショナルスクール

日本人としての立ち振る舞い、常識的感覚を身につけたうえで、他の国の文化を受け入れ、理解することが大切。わたしたちにとって、大切な言語は英語より日本語である。日本語力があるということは、言葉についての理解が深くなる。楽しく五感を使った豊かな環境の中で日本語、英語の順でたっぷりと言葉を楽しむ。また、インターナショナル教育として大切なことは、世界と自分が繋がっているのだという思い。イギリスで嬉しいことがあった時に、「イギリスは〇〇先生の母国だから、よかったな」と思え、悲しいことが起きた時に「〇〇先生やご家族は無事だろうか?」と思える。どこの国でも遠い国の他人事ではなく、自分の大切な人の国である可能性が高く、痛みや喜びを自分のことのように身近に感じる感覚を養う。

## 研修を終えて...

この研修に参加して初めてシンガポールを訪れましたが、人種や街並みを見ると、本当にさまざまな文化が混ざり合っている国だと思いました。日本で暮らしていると、自分で行動しない限りあまり他の文化に触れる機会はないですが、シンガポールでは、みんな違うことがあります。英語といつてもシンガポール独特の発音になっていたり、中国語やマレー語を話す人がいる中で、どのように生活しているのか。

わたしも研修中に空港で荷物を受け取る場所が分からなかったり、朝食のメニューを尋ねられ、すぐに答えられなかつたりとハプニングがありました。日本語の通じない相手にそれをどうやって伝えようかと考えさせられ、知っているばらばらの単語とジェスチャーでなんとか伝えました。相手も英語が話せないことを理解してくれて、指さしや分かりやすい簡単な英語に変えて伝えてくれました。

シンガポールで過ごす子どもたちはそれが小さいころからあたりまえであり、イーズにもさまざまな国の先生がいます。峯村先生はスカーフを被ったマレー系の先生のお話をしてくれました。その先生は、園のクリスマス会の担当になり、食事の時みんなの前で「メリークリスマス、かんぱい」と言ったそうです。本来、マレー系の宗教ではキリスト教のようにクリスマスを祝うことはしない。母国に知れたら園長として、首を切らなければいけないかもしれませんと峯村先生は冗談交じりに話していましたが、マレー系の先生は人種や宗教を越えて、子どもたちの楽しみのために行動したのです。シンガポールであるから、それができる環境であることを実感しました。

そして、海外を訪れ、改めて日本の良さも学ぶことができたように思います。日本の四季や行事、日本人としての常識があつてこそ外国語教育が成り立ちます。子どもたちにとって、わたしたち大人が手本となり、日本の良さを伝えていく必要があると思いました。そのうえで、渕野辺保育園でも行っているように英語での言葉のやりとりや他の国の楽しさを知り、子どもたちの興味を広げ、子どもたちの未来に繋げられたらと感じました。わたしは保育者として、子どもたちに生きている幸せをたくさん感じ、たくさんの人の関わる環境を作っていくたいと思います。



